

会 議 録

会議の名称	平成26年度 第2回行田市行政改革推進委員会
開催日時	平成26年8月4日（月） 開会：午後1時30分 閉会：午後3時30分
開催場所	行田市産業文化会館2A会議室
出席者氏名	阿久津彰男委員、大久保毅委員、大平敏江委員、櫛引浩士委員、 長島益世委員、野口啓造委員、政田光生委員、宮田淑尚委員 茂木美智代委員
欠席者氏名	なし
事務局	井澤総合政策部長 企画政策課：岩田企画政策課長、浅見政策推進幹、大木主査
会議内容	司会 岩田課長 議事 (1) 行田市行財政改革指針（素案）について (2) 行田市行財政改革プログラム（骨子案）について (3) その他
会議資料	○行田市行財政改革指針（素案） ○行田市行財政改革プログラム（骨子案）表紙 ○5つの基本方針と主な項目 ○行財政改革の取り組み ○行財政改革プログラムのイメージ
その他必要事項	傍聴者 なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p>
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・早速、議事に入らせていただく。ここからは、委員会設置条例第5条の規定に基づき、会長に議事の進行をお願いする。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。議事の円滑な進行に皆さんのご協力をお願いする。 ・本日の会議の公開について確認させていただく。本委員会の会議の開催については、これまでも原則公開で実施している。これまでどおり原則公開することで皆さんよろしいか。
委 員	<p>（異議なし）</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・なお、非公開事項がある場合にはその都度会議に諮って決定することとしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局に伺う。本日の審議内容に、非公開とすべき事項はあるか。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・特段、非公開とすべき事項はない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・非公開事項はないとのことであり、公開して会議を進める。 ・議事の(1)「行田市行財政改革指針（素案）について」、及び議事の(2)「行田市行財政改革プログラム（骨子案）について」、一括して事務局の説明を求める。 <p>（会議資料一式を用い説明）</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま事務局から説明があったが、内容についての意見や質問があれば挙げていただきたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・取組項目の中の「市有施設の活用方針」について、門井球場は建設から40年以上経ち、利用者も以前より少なくなり、使命は既に終わっているのではないか。土地はかなり広いので、用途変更や、売却など考えるべきだ。 ・門井地区に関連して、市はJR行田駅周辺にかなりの土地を有しているが、所有することにより駅周辺の発展の遅れになっていないか。 ・また門井地区にはかなりの生産緑地があり、そのため開発が遅れているのではないか。生産緑地のあり方についても検討すべきと思う。 ・「補助金等の見直し」について、必要、不必要なものを見極めながら

<p>委員</p>	<p>見直しが必要と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また組織の簡素化について、市の事務は国・県からの業務や市民からの要望で業務が多岐に渡っており、職員の能力向上がないと職員数が増えてしまうことになる。組織を簡素化する為には職員の能力向上が必要である。 ・市は人口減少についてどう考えているのか。近年市内在住の若者が進学や就職をするのと同時に東京方面へ転出する傾向にある。若年層の流失が人口減少を招いていると思うので、市は一度検証したほうが良いと思う。 ・また、市と企業の接点も少ないと感じる。市においても地域の商店や地元の工場主だけではなく、工業団地に進出している企業とも接点を持ち、意見を反映し、改革を推し進めていくべきと考える。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化、人口減少社会に対する施策については、特に若年層の世帯を転入させることが、市の活性化には必要と考えるので、市は昨年度から、住宅取得時の奨励金や企業誘致に対しても県内でも手厚い8種類の企業立地奨励金制度を設けている。 ・今回の改革プログラムの骨子案の中で、「財政力の向上」に「企業誘致の促進」を設け、企業誘致の確保に力を入れている。また行政と企業が連携して「エコノミックガーデニング」に取り組み、中小企業への支援を推進していく。現在、行田市をはじめとする行政機関、商工会議所、金融機関、ものづくり大学等の関係機関との相互のネットワークの構築に向けた準備を進めている。 ・近年の人口減少の要因等について、人口動態等の分析を行っているので、次回の会議において資料を示させていただく。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの委員の発言の中に、市と市内企業との接点が少ないとあったが、一つの提案として、富士見工業団地内の企業間でもっている協議会がある。市がそこへ参加することにより、企業との接点が作られると思う。 ・行財政改革指針（素案）について、内容は良いものだと思う。ただ残念なのは、具体的な取り組みや数値が記載されていない。この指針の取り組みは全庁に渡っていると思うので、各担当課に問題点、改善項目、予算、実施時期、具体的な効果数値を入れて、計画を作

<p>委員</p>	<p>成して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前私は民生委員を務めたが、当時の担当職員の異動が多く、不都合があった経験がある。7年間の長期的な取組を行うのであれば、その間大きな人事異動を行わず、じっくりと改革を行っていただきたい。 ・また「補助金等の見直し」について、補助金の中には重要な事項もあるので、安易に削減することなく熟慮して見直しを行っていただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工業団地の件については、意見として担当課に伝える。 ・また行財政改革を行うにあたり、具体的な取り組みや効果額等を記載する件については、市としても成果の見える改革を行うべきと認識している。歳入、歳出の効果額については、現在担当課と調整しているが、試算がまとまり次第「行財政改革プログラム」の中で示させていただく。 ・人事異動については、「行田市人材育成基本方針」に基づき行っているが、異動を行ったことにより業務に大きく支障をきたすことのないよう、担当課に伝える。 ・補助金等の見直し方法については、ただ一律に削減するのではなく、内容、趣旨、目的等を精査して見直しを行いたいと考えている。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金等の見直しについては、急速な人口減少の中で、財政面で厳しくなることが予想されているので、補助金等の一部削減だけではなく、団体の活動状況によってはその補助金を廃止するなど、抜本的な見直しを行うべきである。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい財政状況の中、これまで通りの行政運営を遂行していくことは非常に困難であり、今後行財政改革に取り組む上で職員の強い意識改革が必要であると認識している。 ・また市の財政が厳しい状況にあることを、機会を通じて市民の方に伝え、ご理解を得ながら、市全体の問題として行財政改革に取り組んでいかなければならないと考えている。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日「ふるさと納税」について報道があったが、行田市はふるさと納税制度を行っているのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税制度は行っているが、地域の特産品をお礼として送る

<p>委員</p>	<p>ような特典は行っていない。今後行財政改革プログラムに位置づけ、本制度の拡充を図ってまいりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このような興味を引く施策は、先駆けて行って欲しい。また、一昨年映画「のぼうの城」が公開され、その時出演した俳優を起用し、行田市をPRすべきだと考えていた。市のPRを上手く行えば、市の活性化につながり、若者が魅力を感じてくれるのではないか。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館使用料について、受益者負担の考えに基づきある程度利用者が使用料を支払い、市の財政の負担を担うべきである。難しいことだが公民館利用者の方に理解してもらわなければならない。 ・職員の人事配置について、福祉や相談業務の担当課などは、職員を頼ってくることが多いので、一度に異動が行われると、専門的な知識を持つ職員が少なくなり、市民が不安を感じてしまう。後進をある程度指導してから異動させるような人事異動を行うことも、一つの行政改革であると思う。 ・また職員の意識改革、特に接遇については、市民は顧客であるため、職員は行政マンとして適切な接遇を行うべきある。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行財政改革の取組みの中で「効果的なジョブローテーション」とあるが、ある部署で所長と副所長が同時に異動したことがあった。このような職員の異動については、改善をお願いする。 ・また、前回の会議資料で行田市が「子宮頸がん予防ワクチン」の全額助成を行っている」と記載されていたが、この予防接種は全国的にも問題になり、接種を行うにあたり注意喚起がなされた経緯があるが、本市の現在の実施状況をお聞きしたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行財政改革を行う上で、職員の意識改革は不可欠である。本指針の中にも組織・人材の改革として位置づけている。 ・また職員の接遇について、市民目線に立った行政サービスを行うためには、接遇は非常に重要で、市民と職員の最初の印象で市の印象が決まってしまうものと認識している。今後は職員一人ひとりが市民目線に立った丁寧な対応を心がけるよう、意識を高めてまいりたい。 ・また人事異動に関して、少人数の部署において同時に異動が行われると、業務に支障が出るのが考えられるので、今の意見を担当課

<p>委員</p>	<p>に伝えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子宮頸がん予防ワクチンの全額助成については、今一度調べ次回にお答えしたい。 ・現在の行田市の財政が大変厳しい状況にあることは、住民にあまり知られていないと思う。この状況を開示することが重要であり、財政難の覚悟は職員だけではなく、住民も知らなくてはならない。 ・また、行田市は高齢者においては、緑も多く住みやすいところだと思うが、若者はどう考えているか。以前民生委員に聞いたことがあるが、若者が市外へ流出しているようである。若者に魅力あるまちづくりをしなければならない。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層世代は、就職や結婚、子育てなど人生の転機を迎え、住居の移動が多い世代であり、この世代の確保は非常に重要であると考えている。本市では転入・転出者や子育て世帯住宅取得奨励金の対象となった方にアンケートを取った結果、子育て環境や交通利便性の充実などを求める意見が多かった。今後結果を踏まえ、魅力ある施策を打ち出し、若年層世代の流出を防いでいきたい。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行田の魅力の発信は、行政だけではなく、各種団体など様々なところに協力してもらえよう依頼しても良いと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市に隣接する鴻巣市の新宿地区があるが、近年大規模開発があり発展が著しい。その反面JR行田駅周辺が寂しくなっている。駅周辺の発展について市はどう考えているのか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関連して、JR行田駅のロータリーについて、現状では狭く、通勤時は送迎の車で渋滞し、危険な状況である。ロータリーの隣に公園があるので、その土地を利用し改修はできないだろうか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市はJR行田駅を玄関口として考えているようだが、実際にはあまり開発を行っていないのではないか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前谷地区は、比較的行田駅から近く、農作地の多いところである。そこを開発したらどうか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前谷地区については今年7月から開発要件の規制を緩和している。またJR行田駅前については、住民の方を交えワークショップを開催するなど、駅利用者や市民の意見等を伺いながら、再整備計画を今後策定する。JR行田駅前は本市の南の玄関であり、まちの顔で

	<p>あることから、駅前広場とその周辺の機能を高めていきたいと考えている。</p>
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・秩父鉄道の新駅の開発はどのように進んでいるのか。 ・現在熊谷、持田駅間で新駅の設置に向けた協議が進んでいる。新駅の場所は、行田市と熊谷市の行政境になるが、行田市側の土地は市街化区域で宅地開発が可能であるので、人口増加に繋げていきたい。
委員 議長	<ul style="list-style-type: none"> ・若者に魅力ある街を目指すには、教育の充実も必要である。教育に対しても力を入れるべきだ。 ・行田市には進修館高校があり、市で唯一の高等学校である。県教育委員会に働きかけ、進修館高校の魅力をPRし、市外から生徒が集まるような高校になれば良いと思う。 ・改めてここで、行財政改革指針（素案）について、基本的な内容はこれで良いかお諮りする。また、この行財政改革を進める上で付帯意見があれば、この場でご意見をいただきたい。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市には総合振興計画など上位計画があるが、この行財政改革において整合性はとってあるのか。 ・委員のご指摘とおおり、上位計画として第5次総合振興計画があり、その計画を実行するうえで、財源を生みだしていく改革の手法や市民満足度を高める施策をこの行財政改革に盛り込み策定していくものなので、整合性は取れている。
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この指針の中で、様々な改革を行うと決意が述べられているが、決意だけではなく、改革を行う途上でチェックをする方法は考えているのか。 ・指針及びプログラムを定めた後、毎年改革の進捗状況を検証し、その都度本委員会を開催し、報告を行い、次の改革に向けて意見を伺わせていただく。行財政改革については、本委員会を中心にPDCAサイクルを基に、改善を図っていきたいと考えている。 ・また、改革の成果についてもホームページ等で広く公表していく。
議長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・他に意見はあるか。事務局はこれまでの意見等を踏まえ、次回の会議で指針（案）と答申（案）を提示されたい。 ・次に「(3) その他」で事務局から何かあるか。 ・これまでの委員の皆様のご意見等を踏まえ、行財政プログラムの骨

<p>議 長</p> <p>議 長</p> <p>事務局</p>	<p>子の内容について、いただいた意見を基に修正すべき点は変更し、次回の会議に個々のプログラムの素案を示していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の委員会にて提案のあった、行田市内の工業団地の企業の進出と市の人口動態について、また人口減少対策について、現在行田市で行っている施策を説明する。 ・ 人口減少の対策案としてご提案いただいた「子育て支援」、「教育」、「企業誘致」など、若者を中心とした定住促進のための総合的な対策として本市が行っている主な事業を説明する。 ・ その他のことについて、何か意見はあるか。 <p>(特になし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以上を持って本日の議事を終了し、これをもって議長の職を下りる。 ・ それでは次回の会議の日程を決めさせていただく。 <p>(委員の予定から8月26日午前に開催が決定した)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の委員会の詳しい日程については、決定しだい通知させていただく。また次回も事前に資料を配布させていただく。以上をもって、本日の行政改革推進委員会を閉会する。 <p style="text-align: center;">< 閉会 ></p>
----------------------------------	---